

# 芸術表現体験活動と省察活動による教育プログラム

青山学院大学社会情報学部生涯学習ラボ／苺宿研究室が提案する、「先生の学級づくりを応援する」教育プログラム

## 基本コンセプト

楽しく感じて動いてみる。  
おもしろがって背伸びをする。  
人を通して味わってみる。

アーティストを招いて行う、非日常的な体験。失敗することややり直すことが気にならない時間。体験をとおして、自分の好きなことだけではなく、嫌いなことや苦手なことにも出会っていく。他者を通して、自分の知らない自分や他者に気づいていく体験。先生がやってみたい学級づくりにそんな体験をつかってみませんか。

## 芸術表現体験活動と省察活動による教育プログラムとは何ですか？

**芸術表現体験活動**＝正しい解がない芸術表現をしたりグループで創作したりする活動。

**省察**（せいさつ）**活動**＝芸術表現体験活動で感じた・考えたことを意味づけていく活動。

これを組み合わせて行うのが、芸術表現体験活動と省察活動による教育プログラムです。

児童・生徒がこれからの社会を生きていくために「**資質・能力**」が求められています。私たちは、社会で活動するために様々な人といろいろなグループをつくっています。そこにはどのグループも納得する共通の答えは存在しません。集まった人たちが自分たちの経験を通して**納得していける共通のルールやゴールイメージ**をつくり合っています。

芸術活動は、特定の正解があるのではなく自分が納得していくことが大切になります。芸術表現体験活動は、グループで**自分たちが納得できる答え**をつくり出していく活動です。そしてその体験を省察活動（ふりかえり）によって意味づけ、自己理解・他者理解を深めていく活動です。

「**資質・能力**」は、**自立（自律）した人格をもつ人間として、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力**と定義されています。

文部科学省：育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会

## このプログラムのゴールイメージは何ですか？

### キャリア教育として

キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力として、①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力があります。このプログラムは特に①②の育成をめざします。ここでいう育成とは、量が増える＝右肩上がりの成長ではなく、質的に上がる＝螺旋的な成長モデルを採用しています。

### 児童・生徒のゴールイメージ

「自分じゃできないと思っていたけど、できた」「得意だと思っていたけど、やってみたら難しかった」「はじめてやったけど、とてもおもしろかった」など、非日常の体験をすることで、出会ったことのない自分の「好き」や「嫌い」に出会い、自己理解を深めること。

「今回組んだグループはやりづらかった」、「いつも話さない人と同じグループだったけど意外に楽しめた」など、他者と協働するときの自分に気がつくこと。

「あんまり笑わない子だけど楽しかったと言っててびっくりした」「僕は苦手だったけど、〇〇ちゃんは得意らしい」など、今まで知らなかった他者や自分と違う他者に気づくこと。

いつもとちょっと違う時間の流れの中で、体験をじっくり味わい、振り返って味わい直す。

その中で、自己理解や他者理解を深めることや、人間関係形成能力や社会形成能力などが育っていくと良いと考えています。

### 教師のゴールイメージ

#### 1) 子どもたちの新しい一面を知る

このプログラムは、自分の学級を学校外のアーティストなどの教員以外の専門家に任せてみるところから始まります。先生が、**授業をすることが必然の存在**から部外者がデザインした**授業に参加している児童を見る**ことだけでも児童の持つ多面性についていろいろな示唆を得ることができます。示唆が得られるような観察データを研究室が調査することも可能です。

#### 2) 大人の学びとしてのまなびほぐし

私たちは、学校にもっと「**子どもも楽しく、教師にとってもおもしろい活動**」が必要だと考えています。現在の学校は、**当為の教育**＝「授業はこうあるべき」「教師はこうあるべき」に囲まれています。しかし、それだけでは、柔軟性に欠けますし、息苦しくなる先生もいます。

いま、**当為の枠組みを外してみる**ことが必要です。一呼吸おいて、**いつもと違う視点から**自分の実践を見つめ直すことで、見えてくることもあるはずです。

#### 3) 学級づくりにいかす

芸術表現体験活動と省察活動による教育プログラムは、その実施時間だけでは十分に成果を上げることはできません。このプログラムを一つのきっかけとして、児童・生徒の多様な視点で捉え直すこと、自分の実践を別の視点から見つめ直すことを通して、先生をめざす学級づくりを応援したいと思っています。

## 芸術表現体験活動と省察活動による教育プログラムは具体的にどんなことをしますか？

### 芸術表現体験活動

(アートワークショップの体験)

+

### 省察活動

(ふりかえり)

芸術表現体験活動と省察活動による教育プログラムは、芸術表現体験活動2コマ、その翌日または翌週に省察活動1コマで1ユニットです。

#### < 芸術表現体験活動の例 >



演劇的手法を用いて、何かに「なってみる」活動やゲーム等でハードルを下げた上で小さなストーリーを演じる活動など。



協働的な表現活動を楽しめるプログラムにおいて、グループで協力して、映像制作を行う活動など

芸術表現体験活動は、その分野の専門家、アーティストを招いて行います。先生は、プログラムの目的に合わせて子どもたちを観察し、省察活動で何を省察することが学びにつながるか、普段の学級の活動に何が生かせそうかを、研究者と一緒に考えます。

#### < 省察活動の例 >

芸術表現体験活動の直後に書くリフレクションシートや映像を見ながら、自分の行動やそのときの気持ちを振り返ります。グループで比べてみて同じところや違うところを見つける活動なども行います。



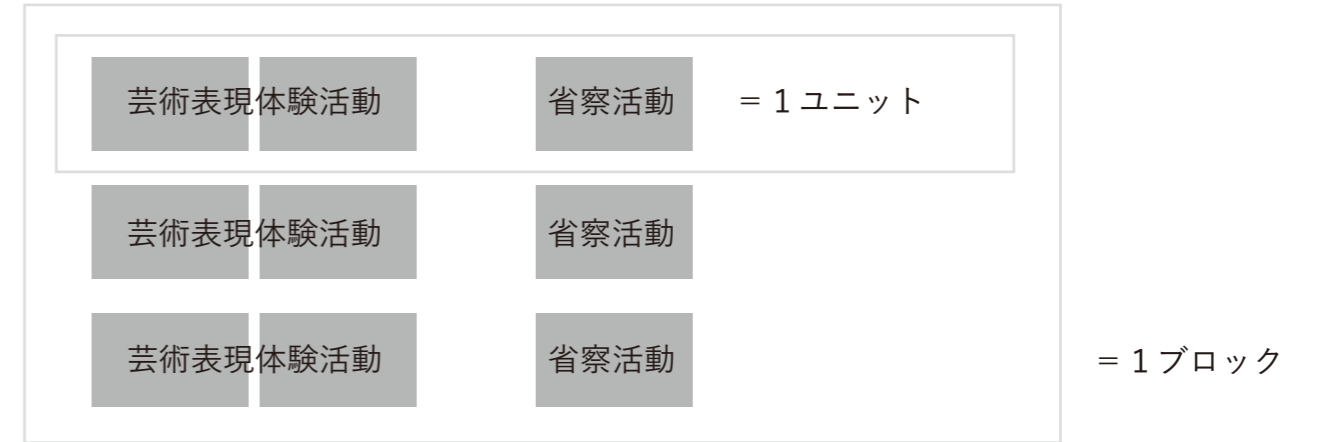
2015年度 ワークショップデザイン  
年 月 日 ( ) のリフレクション 学級番号: \_\_\_\_\_ 氏 名: \_\_\_\_\_

① 感じたこと  
② 思ったこと  
③ 感じたこと  
④ 思ったこと  
⑤ 感じたこと  
⑥ 思ったこと

▲リフレクションシートの例

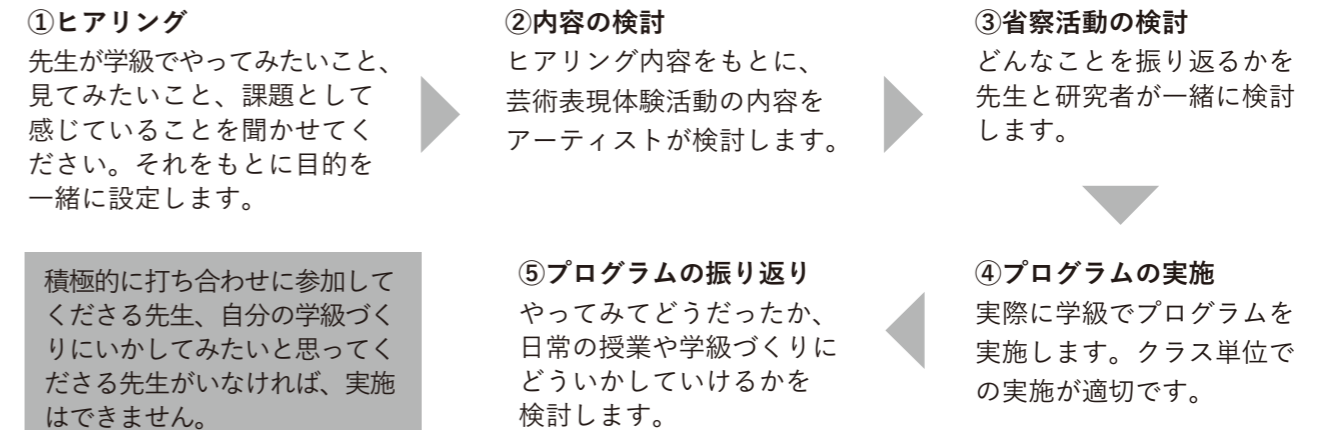
## 何時間くらい実施できますか？

芸術表現体験活動と省察活動による教育プログラムの基本単位は、2コマの芸術表現体験と1コマの省察活動の1ユニットです。



学校の現状やニーズに合わせて年間1ユニットから3ブロックまで、カスタマイズすることができます。前後に導入やまとめの時間を入れることも可能です。実施は基本的にクラス単位。対象者は小学校(中)高学年～大学生まで対応が可能です。

## どんなスケジュールで進みますか？



#### < お問い合わせ >

本プログラムについてお分かりにならないことやリクエストがありましたら、お気軽にご連絡ください。

〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺 5-10-10 棟 119  
青山学院大学社会情報学部附置生涯学習ラボ / 青山学院大学社会情報学部対宿俊文研究室  
TEL/FAX: 042-759-6380  
MAIL: n\_nagashima@si.aoyama.ac.jp (担当:長島)